

1月9日 マルコによる福音書1章9~11節 今日の説教から
説教題：「救世主登場」

本日の説教題は「メシア登場」とさせて頂きました。救い主であるイエス様がこの世に現れて、公の宣教活動を開始したことを覚える日「公現日」と関連させてこの説教題としたのですが、イエス様の二つ名である「メシア／キリスト」、日本語にすれば「救世主」や「救い主」について、私たちは「この世の人々を救いに導く主」として理解していると思います。

イエス様の時代において人々が救い主を待ち望んでいたのは、旧約聖書と新約聖書の間に起きた「マカバイ戦争」という戦争の影響が強くあったようです。紀元前160年ごろのユダヤの国は、強大な国に支配され、エルサレム神殿をゼウスの神殿にされ、律法を守ることさえ禁じられていました。さらには敵国に取り入ることで信仰よりも地位や富を優先したユダヤ人もあり、国の中においても同じ民族同士で憎み合う状況になっていたそうです。

そのような背景の中で、人々は「軍事的な指導者」という形の救い主を待ち望んでいました。人々は「エジプトによって支配されているから平和」「ローマによって支配されているから平和」という、いつ終わるか分からない平和ではなく、自分たちの国によって保たれる永遠の平和を待ち望んでいたのです。マカバイ戦争は、「ユダ・マカバイ」という英雄によって、外国に支配されていた状況からユダヤの国の独立へと至ることが出来ました。聖書に出てくる熱心党という派閥のユダヤ人は、このユダ・マカバイという人物こそが旧約聖書に預言されていたメシアであると考えたそうです。しかしそうではありませんでした。ユダヤ人による独立を取り戻したものの、背後にはローマの影響が強く、イエス様の時代においても「強大な支配者による絶対的な独立」は叶っていませんでした。

そして、ついに救世主がこの世に生まれました。イエス様の誕生です。それは、人々が望んでいた「軍事的な指導者」という形ではなく、人々が夢見ていた「誰よりも強い人」という形でもなく、しかし人々が「本当に必要としていた形」でこの世に生まれました。イエス様は誰の支えも必要としない絶対的な存在としてではなく、「私たちと同じ人間」として生まれ、私たちと同じように洗礼を受けたのです。イエスさまだけが神様から直接洗礼を受けて、私たちが受ける洗礼がその模倣のようなものであれば、イエス様と私たちには越えられない壁があったことでしょう。「救世主と救われる人間」、「神様と人間」という絶対的な壁がそこにはあったはずです。しかしそうではないのです。私たちの救い主であるイエス様は、私たちと同じように生き、私たちと同じように痛みや苦しみに顔をゆがめ、孤独の苦しさを知っているのです。私たちは洗礼を受けるイエス様の姿に、「軍事的な指導者」ではなく「私たちと共に歩む平和の君」である救い主の姿を見ることが出来るのです。

私たちと共に歩んでくださるイエス様の姿を仰ぎ見ながら、私たち一人一人も平和を実現するものとして今週一週間、これから歩みを進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書1章9～11節

- 9:そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“靈”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。